

## 月例研究発表要目

- 第70回 昭和51年2月17日 山田直道氏「オセローについて」  
第71回 昭和51年6月2日 出口裕弘氏「ラスコーの壁画について」  
第72回 昭和51年7月7日 桜井雅人氏「英語の受動文について」  
第73回 昭和51年10月6日 折敷瀬興氏「中国の『簡化字』について」  
第74回 昭和51年11月24日 山田泰司氏「イギリスの初等教育について」

## 編集後記

論文集や雑誌のまとめの仕事に関係すると、そこに集まった文章がいったいどれほどの人に読んでもらえるかいつも気になる。編集者のかなしいサガというべきか。ある統計によれば、高度に専門的な学術論文の読者数は1.5人であるという。ここには筆者自身も含まれるそうだから、その1人を除けば、2篇の論文について読者が1人、つまり学術論文の半分はだれにも読まれない勘定になる。もっともこれは又聞きであるから、真偽は保証の限りではない。本号についていえば、このいささか眉唾ものの統計の平均数値の数十倍ないし数百倍の読者を獲得しよう論攷、少なくとも獲得する値打のある文章のみを収載するという本誌創刊以来のきびしい伝統を引き継いだと自負している。とりわけ書評欄ではあでやかな執筆陣の協力も得ることができた。

昨年から本年にかけて月例研究会の回数が減少しているのは、人文系を中心とする新学部の創設にかかわる活動に当語学研究室のエネルギーの大部分がふりむけられているためである。幸いにして現在この問題が全学的に検討される段階に到達しているので、近い将来何らかの結論が下され、ふたたび本来の研究活動も活発になるものと期待される。

語研メンバーでは猪口、久保内両氏が東京大学に転出し、折敷瀬、桜井、恒川の3氏が新たに加わった。

本号の編集には語研運営委員の中村と助手の御園生、村田の3人が当たったが、原稿の整理・割付け、印刷・製本面などは従来どおり志村俊司氏のお世話になった。記して感謝の意を表する。

# GENGO BUNKA

—Cultura Philologica—

XIII

1976

## CONTENTS

### Articles

- H. M. Enzensberger, an heir of the Enlightenment  
..... Junzo Aoki 3
- On the American Negro's Experience of Christianity  
..... Tadatoshi Saito 18
- On Compound Adjectives in English..... Masato Sakurai 34
- Hermes-Motiv in Thomas Mann's Roman *Doktor  
Faustus* ..... Toshio Morikawa 55

### Notes

- Keats and Chapman's *Homer* ..... Wataru Kikuchi 70

### Materials

- On the first edition of Ekai Chōon's  
*Kakuretsujamōhen* ..... Fumio Umetani 77

### Reviews

- Peter Wapnewski: *Waz ist minne* ..... Hiroshi Arai 81
- Gershom Scholem: *Walter Benjamin—  
die Geschichte einer Freundschaft*..... Nanami Iki 86
- Hermann Kesten: *Ein Mann von sechzig Jahren*  
..... Michiko Ueno 89
- Nagai Kafū: *La Sumida*, traduit du japonais  
par Pierre Faure ..... Kimiko Kanazawa 92
- J. D. O'Connor and G. F. Arnold: *Intonation  
of Colloquial English*, 2nd ed..... Hiroshi Matsusaka 94
- Jonathan Dermot Spence: *TO CHANGE CHINA  
—Western Advisers in China 1620-1960*, translated  
into Japanese by Zenkichi Mitsuishi  
..... Seiko Mugitani 97
- Owen Chadwick: *The Secularization of the  
European Mind in the Nineteenth Century* ..... Akiko Yoshida 101

THE HITOTSUBASHI LANGUAGE INSTITUTE

HITOTSUBASHI UNIVERSITY

KUNITACHI, TOKYO

JAPAN